

3. 流域の社会状況

1) 土地利用

由良川流域は、けいほくちよう みやまちよう たんぱちよう ひよしちよう みずほちよう わちちよう みわちよう やくのちよう京北町、美山町、丹波町、日吉町、瑞穂町、和知町、三和町、夜久野町、あやべし ふくちやまし おおえちよう まいづるし みやつし いちじまちよう かすがちよう ささやまし綾部市、福知山市、大江町、舞鶴市、宮津市(以上、京都府)市島町、春日町、篠山市(以上、兵庫県)の5市11町にまたがっている。

流域の土地利用の動向としては、おさだの長田野工業団地や綾部工業団地等の建設に伴う住宅地開発が進展しており、今後とも周辺地域における市街化の進行が予想される。また農業地域では綾部盆地における大規模圃場整備が実施されているほか、福知山盆地においても大規模圃場整備の気運が高まっている。

なお流域の市街地面積の割合は表 3.2に示すとおり、年々増加の傾向にあるが、流域全体に占める割合は未だ1%未満と小さいものである。

表 3.1 由良川流域の耕地面積 単位 :ha

佐々里川	7.1	大谷川	70.3	田中川	19.7
河内谷川	9.2	大砂利川	12.3	檜川	92.1
知見谷川	23.5	土師川	4,178.3	宇谷川	21.0
深見川	9.5	法川	31.6	岡田川	149.5
原川	42.5	和久川	502.6	久田美川	16.6
棚野川	156.0	弘法川	198.5	真壁川	24.0
川谷川	30.5	牧川	913.9	八戸地川	29.5
上和知川	91.9	大呂川	84.5	丸太川	9.2
高屋川	1,245.0	花倉川	78.0	土佐川	9.3
上林川	672.8	谷河川	33.8	和江谷川	3.0
田野川	26.4	在田川	27.7	馳出川	1.7
八田川	588.5	尾藤川	37.3	大迫川	3.9
安場川	48.6	蓼原川	24.9	由良川	2,053.4
犀川	952.3	宮川	393.0		
荒倉川	17.2	枯木川	8.6	計	13,093.1
相長川	134.8	三河川	9.1		

出典：国土数値情報（平成2年）

表 3.2 流域の市街地面積の変遷

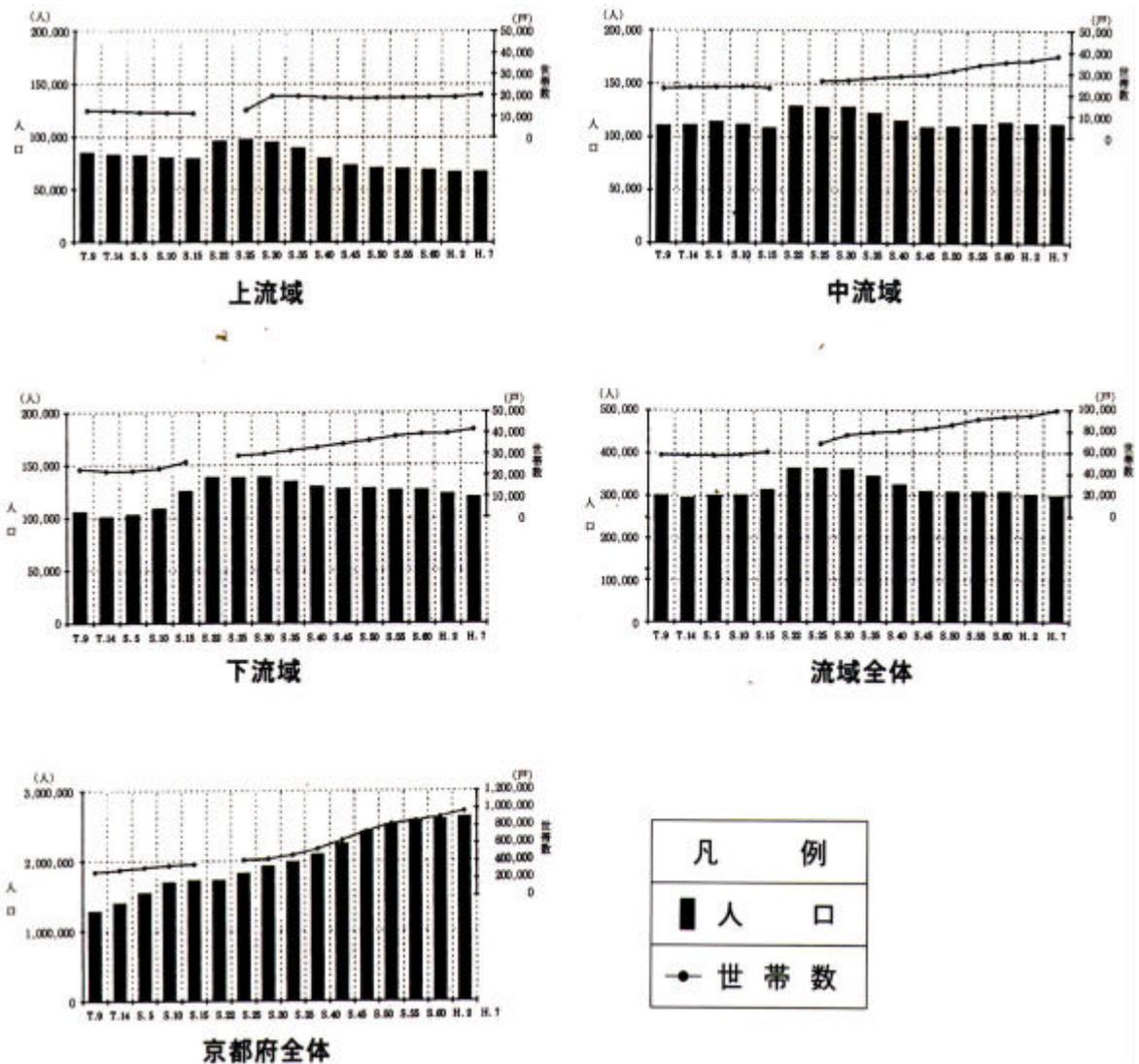
年次		土地利用の比率(%)	
		市街地	農地・山地
S 3 5	1960	0.2	99.8
S 4 0	1965	0.2	99.8
S 4 5	1970	0.3	99.7
S 5 0	1975	0.3	99.7
S 5 5	1980	0.7	99.3
S 6 0	1985	0.7	99.3
H 2	1990	0.8	99.2
H 7	1995	0.8	99.2
H 9	1993	0.8	99.2

市街地はD I D地区として集計した。

2) 人口

由良川流域の関係5市11町の人口は、大正9年の約302,000人から昭和25年の約365,000人までは増加傾向にあったが、それ以後減少を続け、昭和45年には約311,000人となった。平成7年では約300,000人で、昭和45年当時より僅かに減少している。世帯数は、大正9年の約58,000世帯から平成7年には約100,000世帯と倍近くまで増えており、核家族化の傾向を示している。

また、流域別に人口の推移を見ると、上流域は中・下流域よりも減少の割合が大きい。中流域はピークの昭和22年から昭和45年まで減少傾向にあったが、それ以後は横這い傾向を示している。世帯数は、中・下流域は増加傾向を示しているのに対し、上流域は昭和30年以降横這い傾向を示している。



下流域は舞鶴市・宮津市、中流域は大江町・福知山市・綾部市、上流域はその他の町のデータを集計した。
資料：国勢調査結果

図 3.1 流域関係市町の人口・世帯数の推移

3) 産 業

由良川流域における産業の動向では、第1次産業の比率が低下してきている。しかし兼業農家も含めた農林業就業者の比率は高く、農林業は依然として地域の基幹産業となっている。また都市部では第3次産業の比率が高まっており、約60%の就業者比率を示している。

表 3.2 流域内産業別就労人口 (単位：人)

全 産 業	一次産業	二次産業	三次産業
93,128	15,328	33,637	44,163

出典；事業所統計

表 3.2 流域内生産額等

農業生産額 (千円)	製造品出荷額 (千円)	三次事業所数 (力所)
14,169,625	150,517,811	7,747

出典；事業所統計

主要都市の動向で見ると、次のような特性がある。

福知山市は長田野工業団地(昭和49年分譲開始)の影響もあり、第2次産業の割合が高いのが特徴である。製造品出荷額では精密機械が高く、次いで化学、電気機械の順である。市全体としては機械金属関係の業種が多いが、石油・石炭、ゴム製品、輸送機械を除いて平均的に各業種が集積している。長田野工業団地に多彩な業種が集積していることもあって、ハイブリッドな工業地域が形成されつつある。

綾部市は、市域の面積が広く農山村地域を多く抱えているため、5市の中では第1次産業就業者の割合が高くなっており、繊維工業と、この関連で発展した金属工業が中心である。電気機械、一般機械などが伸びており、綾部工業団地(平成8年4月完成)への製造業の集積が見込まれる。

舞鶴市は、周辺拠点都市の性格から第3次産業の集積があり、製造品出荷額では窯業・土石が中心となるほか、臨海型産業として木材・木製品加工業が立地している。

宮津市は、丹後ちりめんを核とする繊維・衣服産業が中心であるが、他業種は小規模であり、工業的な集積には乏しい地域である。

4) 将来構想

由良川流域が位置する京都府北部は、京都府によって「北近畿高次機能集積ゾーン整備構想」(第4次京都府総合開発計画「京都府民21世紀への設計図」)が、次のように策定されている。

[基本方針]

高速交通網の整備に伴って、急速に地域のポテンシャルを高めつつある福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市等については、北近畿の中核都市群にふさわしい各種高次都市機能の集積を促すとともに、高速道路結節ゾーンにおける高度産業拠点の整備等の促進、舞鶴港港湾機能の高度化、リゾート機能の充実、住宅市街地の整備等を総合的に展開することにより、裾野の広い経済基盤に立脚し、多彩な機能を備えた北近畿をリードする中核的な都市圏の形成をめざす。

高速交通網の整備に伴う京阪神大都市との時間距離の短縮により、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市等とその周辺地域は、急速に地域のポテンシャルを高めることになる。特に、京都縦貫自動車道と舞鶴自動車道に加えて、北近畿タンゴ鉄道宮津線・宮福線とJR舞鶴線・山陰本線とで結ばれるゾーンについては、すでに20万人余に及ぶ北近畿最大の人口等の集積を擁しているが、今後、この地域については、この条件の変化を最大限に活かして、交通網の整備と併せた地域整備を進めることにより、新しい時代にふさわしい多彩な高次都市機能の集積を図り、北近畿の中核都市圏の形成をめざす。

[整備方向]

この地域には、商業、港湾、工業、観光といった性格の異なる集積を有する諸都市が存在するが、今後、このゾーンが北近畿の中心としての機能を発揮していくためには、この圏域に属する諸都市が連携してゆるやかな都市群を形成し、全体として地方中核都市にふさわしい高度な商業・業務・サービス機能、情報処理機能、医療・高等教育・文化機能等からなる高次都市機能を備えることが必要である。

また、高速道路等の整備を踏まえた高度産業拠点の整備、舞鶴港等の港湾機能の高度化、流通拠点機能の整備、さらには各種の機能を支える高度情報等の基盤施設と良好な住環境を備えた住宅市街地の整備などを総合的に展開し、活力あふれる経済基盤の上に立って、北近畿をリードする都市圏を実現する。